

不易と流行パート4 ～敗者も美しい～

色彩あふれる紅葉の美しさに心弾む季節となりました。保護者・地域の皆さまにはますますご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、今月は世界陸上やワールドカップバレーボール等、大きなスポーツイベントが、各地で開催されました。中でも、ラグビーW杯は日本代表チームが決勝トーナメントに進出したこともあり、大いに盛り上がっています。学校でも運動会や市陸上記録会があったこともあり、今月の全校集会ではスポーツにつきものの「敗者」について話をしました。

スポーツでは、試合ごとに勝者と敗者、優勝者と優勝できなかった者が生まれます。勝者や優勝者は、インタビューを受けたり、写真に撮られたりして、スポットライトを浴びます。敗者が注目されることは多くありません。しかし、敗者が勝者以上に美しく輝くこともあります。

それは、2年前に韓国で開催されたピョンチャンオリンピックでのことです。日本は冬季オリンピックでは、過去最多のメダルを獲得し、連日テレビや新聞などで日本人選手の活躍が報道されていたことを覚えている人もいるでしょう。また、スピードスケートやカーリング競技では、人々に大きな感動を与え、新たなスター選手も生まれました。そんな中で、私が注目したのは、女子ジャンプ競技に出場した、伊藤有希という選手でした。彼女は、その前のソチオリンピックにも出場し、結果は7位でした。彼女にはライバルがいました。2歳年下の高梨沙羅選手です。高梨選手は、すでに有名で、女子ジャンプ競技では一番優勝回数が多い選手です。しかし、オリンピック前は伊藤選手の方が調子が良く、優勝候補にもなっていました。ピョンチャンオリンピックでは、2人のうちどちらかが金メダルを取ってくれるのではないかと期待されていました。



しかし、結果は高梨選手が見事銅メダル、伊藤選手は9位と惨敗でした。

目標のメダルがとれなかったこと。年下のライバルに再び負けたこと。応援してくれた人たちの期待に応えられなかったこと。4年間、苦しい練習を続け、楽しいことも我慢し、メダルを首にかけるとを夢みてきた伊藤選手の気持ちを想像すると、かける言葉がありません。みなさんが伊藤選手の立場だったらどうでしょう。私なら、くやしさとみじめさと申し訳なさと、その場から逃げ出したくなったと思います。

ところが、彼女は逃げ出すことなく、不運（風が止んだこと）を恨むことも、言い訳することもしませんでした。心の中で泣きながら、しかし、そのくやしさを自分の胸にしまい、ライバルの銅メダルを獲得した高梨選手に「おめでとう。よかったね」と祝福するために真っ先に駆けだし、抱きしめたのです。

私は、この光景が印象に残っています。スポーツにおいて金メダルを取ること、一番になることは、とてもすばらしいことです。でも、失敗したり、負けたり、目標を達成できなかつたりした時に、言い訳せず、勝者を、ライバルをたたえる心の広さ・豊かな人間力をもつこともまた大変すばらしく、貴いことだと思います。伊藤有希選手は、競技では金メダルはとれなかったけれど、心の金メダルを私たちにを見せてくれたのではないかと思います。

大野っ子たちも、これから先、つまづくことや上手いいかないこと、友達をうらやましく思うこと等が何度かあると思いますが、そんな時、この伊藤選手の話思い出してください。「成功が必ずしも、その人の偉大なる所以を語るものではない。失敗にも尊むべきものがある。」と言った偉人もいます。たとえ1度敗者になったとしても、あきらめず、言い訳せず、再び目標に向かってコツコツと努力を積む人になってほしいと思います。